平成２３年度　第３回大和市文化芸術振興審議会　会議要旨

１．日　時　　平成２４年１月２３日（月）午後２時００分～午後４時２０分
２．場　所　　渋谷学習センター３階３０４講習室
３．出席状況　委員９名（欠席１名）
　　事務局５名（文化振興課長ほか４名）
４．傍聴人　　なし
５．議　題
（１）開会
（２）平成２３年度事業の実施状況について（中間報告）
（３）その他
６．会議資料
○平成２３年度事業の実施状況（中間報告）
○平成２３年度からの新たな取り組み

【会議要旨】
（１）開会

（２）平成２３年度事業の実施状況について（中間報告）
○市から、「平成２３年度事業の実施状況（中間報告）」、「平成２３年度からの新たな取り組み」について説明。

委　員：大和市には、スポーツ・よか・みどり財団がある。今後は、文化芸術に関する公演やコンサートなどは、財団の余暇事業を強化して取り組んではどうか。

事務局：市内には鑑賞型事業を実施する施設がなく、財団もなかなかこうした事業に取り組むことができなかった。
昨年、財団は、公益財団法人に移行して文化芸術の振興を柱の一つに掲げたが、依然として、その事業ボリュームはスポーツやみどりと比較すると少ないのが現状である。財団も人員・予算ともに厳しい状況にあることから、今後は、これまで市が実施してきたものを任せるなど、財団の文化芸術事業を充実させていくための方策を検討していく必要があると考えている。

会　長：新たな文化施設が整備されれば、財団のあり方も変わっていくのではないかと思う。

委　員：今年から、財団の文化芸術の窓口が野球場に移ってしまった。文化芸術の振興という点からいうとミスマッチな場所で、またアクセスもあまり良くない。財団にもいろいろな事情があるのだろうが、よりふさわしい場所に窓口を変えた方が良いと思う。

委　員：文化芸術を振興するためには、まず、大和の中でどのような取り組みが行われているのかを知る必要がある。今回の資料のように、これまで、市の文化芸術振興施策をまとめてみることはできなかったので、市の組織の中に文化振興課ができたことはとても良かったと感じている。
また、行政が市民の文化芸術活動に関わることは危うい部分もあるが、一方で、行政に関わってもらわなければ、まちづくりに文化芸術を活かしていくことはできない。
現在の取り組み状況をみると、今のところ行政は良い関わり方をしてくれていると感じている。

会　長：今後は、財団とうまくタイアップしていくことでさらなる発展が期待できると思う。
イラストレーションデザインコンペは継続していく考えか。

事務局：イラストレーションデザインコンペは少なくとも５年間続けていく考えである。この事業は、コンペによって発掘された人材を今後どのように活用していくのかが重要であると考えている。

会　長：現時点で、施策展開を図るうえで課題と捉えているものは行政にあるか。

事務局：現在、大和駅東側第４地区公益施設の管理運営のあり方について全庁的な調整を行っているところである。この施設をどのように管理運営していくべきかを明らかにしていくことがこれからの大きな課題であると捉えている。

会　長：大和アート子どもくらぶに関する取り組みはどうなっているのか。

事務局：具体的なイメージはまだできていないが、全体構想の検討にあたっては、芸術文化ホールで行われる子ども対象の事業も想定しながら進めていく必要があると感じている。
まずはホールがなくてもできるものから始め、段階的に事業を拡大させていくのが望ましいと考えている。来年度の実施を予定している対話型美術鑑賞も、将来はアート子どもくらぶにつながっていくことを期待している。

委　員：大和市は今年度から小学校に司書が配置されている。司書を中心に読書に関する授業が行われるようになったことにより、子どもたちに鑑賞力や読み取りの力が身についたと聞いている。子どもたちの感じる力を育むために、今後のアート子どもくらぶや対話型美術鑑賞の取り組みに期待している。

委　員：対話型美術鑑賞は、他市でも実施しているのか。

事務局：対話型美術鑑賞は、美術館の活動の一環として、また、一部の学校が美術館と連携して行っている事例は多くあるが、自治体単位で実施しているケースは少ないようだ。
大和市の場合、対話型美術鑑賞を積極的に推進している方とのつながりがあったので、事業を立ち上げることができた。
アート子どもくらぶは、子どもたちの文化芸術活動をサポートする組織であると捉えている。現在は、それぞれの団体で子どもたちを対象とした事業を企画、実施しているが、将来的にはこれらの団体をつなぎ、一つにまとまった組織がアート子どもくらぶになってくれれば望ましいと思っている。

会　長：前回の審議会では、アート子どもくらぶをネットワーク組織と捉えるような意見もあったと記憶している。引き続き検討を進めてほしい。

委　員：アート子どもくらぶでは、映像の撮り方などの講習会も開催してほしい。
この講習会を受講した子どもたちに市内の施設やイベントを撮影してもらい、それをショートムービーコンテストなどで発表することができれば、大和の魅力の再発見にもつながっていくと思う。
また、私は今、教育委員会から補助金をいただき、映像を通して、引きこもりの子どもたちの表現力を高める取り組みを進めている。県や国の補助制度を活用して、こういった取り組みをアート子どもくらぶで展開しても良いのではないかと思う。

事務局：対話型美術鑑賞も引きこもりや不登校の子どもたちを対象に展開しているケースがある。そういった視点をアート子どもくらぶの目的の一つに据えても良いのではないかと思う。

委　員：子どもはいろいろな可能性を持っているので、さまざまなメニューを用意した方が良いと思う。また、これから都市が発展していくためには、高齢者や会社を退職した人たちの知識や技術をいかにまちづくりに活かしていくかが重要になる。こうした市民の力を活かして、子どもたちの可能性を引き出してほしいと思う。

会　長：アート子どもくらぶは、子どもとシニアを結びつけるものにもなり得るだろう。

委　員：学校には行けないけれどピアノ教室には行けるという子どもがいる。このような子どもや親の受け皿がアート子どもくらぶであっても良いと思う。

事務局：これまであった意見すべてを、アート子どもくらぶで吸収していくことは難しいと思うが、青少年育成を所管する課と役割分担して事業を進めていくことは可能であるかもしれない。

委　員：さまざまな世代を巻き込み、市民の力を活かした事業展開を行うこと自体は必要であると思う。しかし、効果的に事業を行うためには、やる気、意欲に加え、専門的な知識を持ってもらわなければならないと感じている。対話型美術鑑賞の資料の中にセミナーを開催するとある。このセミナーをどのように実施して、人材を育てていくのかがとても重要なポイントで、アート子どもくらぶでも同様のことがいえると思う。

委　員：映像の分野においては、スマートフォンや新しいメディアは子どもの興味を引くだけでなく、民間企業なども参画しやすいジャンルである。アート子どもくらぶが市民団体だけでなく、民間企業も関わることができるようなものになれば、なお望ましいと思う。

委　員：どのようなことを任せるのかによって、ボランティアに求める能力は違ってくる。そう考えると、いくつか役割を分けてボランティアを募集することも考えられるのではないか。

委　員：ボランティアだから専門的な知識は不要であるというものではない。専門的な視点を持っていなければ、ただやっているだけという風になってしまうと思う。

委　員：なにを目指すのかによって、ボランティアに求められる能力は変わってくるので、一通りではないと思う。

アート子どもくらぶが学校の授業との連携を主な活動とするならば、子どもたちの創造性を伸ばすための文化芸術に関する授業を行ううえで求められるのは、子どもたちが発するものを的確に受け止め、応えることができる能力である。それはとても高度な能力であり、一般的に学校の先生よりもアーティストの方が長けている。ただし、その場合、完全無償で行うのは難しいように思う。

委　員：単にセミナーで知識を身につけた人なら誰でも良いというものではなく、目的を達成するために、いかに的確な人材を見つけることができるかが重要である。

委　員：伝統文化塾については、学校の指導要領に沿っているわけではないので、学校の教育とは分けて実施しているものである。

私は各務原市音楽の街企画委員会に参加しているが、そこでは、「見せる」、「育てる」、「参加する」という３つのキーワードを設けて実施している。アート子どもくらぶでもテーマを決めて取り組むと良いのではないだろうか。鑑賞事業については、他の委員と同様、質の高いものを見せていくべきであると考える。

委　員：ＹＡＭＡＴＯＡＲＴ１００は、来年いつあるのかといった問い合わせを多く受けている。また、ＡＲＴ１００のパンフレットを毎月出してほしいという要望もあった。

ＡＲＴ１００に合わせて実施した、やまとｄｅビンゴも大変好評であった。

委　員：今年の発表会では、多くの来場者が集まった。ＡＲＴ１００で情報発信してくれたおかげであると思う。

委　員：ＡＲＴ１００に寄りかかろうとする団体がいた。中には、そういった考えで参加しようとする団体もいることを事務局の方で知っておいてほしい。

委　員：施策目標５の海外友好都市の取り組みは、文化振興課が所管しているものではないが、文化に関わる施策であるからここに記載されているのか。

事務局：その通りである。

委　員：友好都市に訪問するための補助制度を活用して、アート子どもくらぶや伝統文化塾で創りだしたものを海外に発信し、また、友好都市からアーティストを招いて市内で公演やコンサートなどを開催することができれば良いと思う。

事務局：光明市は生涯学習に力を入れている都市なので、大和に新たなホールが整備されれば光明市の文化芸術団体を招くこともできるのではないかと思う。

委　員：予算があってこそ魅力的な事業が展開できるとは思うが、予算が少ないのであれば、市民の方々が参加し、みんなの手で創りあげていくのが、大和にあった取り組みといえるのかもしれない。

委　員：新たなホールの席数は変わっていないのか。

事務局：席数の変更はないと聞いている。

委　員：今回の施設整備は、芸術文化ホールという文化芸術拠点の建設、生涯学習センターホールの移設、どちらの考えを持って進めているのか。

事務局：芸術文化ホールの方である。ただし、小ホールについては生涯学習の発表の場としても利用できるようにしていく必要はあると考えている。

委　員：生涯学習センターホールでは、市民だけのための施設になってしまう。大和駅は交通の利便性の良いところである。新たなホールには、市外の人々の集客を見込めるような取り組みを期待している。

委　員：多目的ホールは、多様な利用形態が可能となる反面、デメリットも多い。どの部分にフォーカスしていくのかが今後の課題になると思われる。また、楽屋は非常に重要なのできちんと確保すべきと考える。ぜひとも中長期的な視点を持って施設整備を行ってほしい。

委　員：今ある図書館は移転後どのようになるのか。

事務局：まだ決まってはいない。

委　員：他市のホールは住民優先であり、大和市民は良いホールが優先で借りられず不便な思いをしている。今度できるホールは、会場予約、料金の面で市民の利用を優先した形にしてほしいと思う。また、可能であれば和室が一つあれば良いと思う。
音響については、今は自然な音や声で聴くことができるシステムがあるので、これを取り入れれば、多目的でも音響の優れたホールになると思う。

委　員：残響はオペラと式典では全く異なるので、こうした問題をクリアできる有効なシステムであると思う。

委　員：ホールは何階にできるのか。ホールを１階につくり、搬入の面でとても素晴らしい施設があるのを聞いた。

委　員：客席を２階層として、下だけを使うことも可能という形も考えられる。

事務局：ホールが配置される位置、客席の形式については、まだ決まっていない。いただいたご意見は今後の参考にしたいと思う。

委　員：行政がホールの運営を行うと人件費が増えるため、近年では、指定管理者に委ねるケースが多くみられる。民間の力を活用すること自体は良いと思うが、その一方でコストの抑制だけを重視したことで、管理能力の低い業者を指定してしまったり、市の考える施策展開が思うように進まなくなったりといった問題が生まれている。

特に、指定管理団体が市の施策の方向性を理解しているか否かは重要なポイントであり、その点を重視して選定していく必要があると考える。

また、舞台では吊バトンや照明器具の落下事故が多い。そのため、適正な管理を行える技術者を確保できるよう、最低価格を設定するなどの方策も検討すべきと思う。

そして、建物の設計は非常に重要である。２階、３階では音響は全然違うし、音響機器も違ってくる。また、壁によっても音の伝わり方、反響が違う。建設後に大幅な手直しをすることがないよう、設計の段階で音響についての研究を行うことも必要と考える。

新しい施設には、年間で何億という維持管理費がかかると思われる。市民の理解を得ながら、将来を見据えた維持管理を考えていく必要がある。さまざまな角度から十分に検討していただき、良い施設をつくってほしいと思う。

３　その他

〇次回は、５月に開催することを確認。日時については会長と調整を行い、決定する。